東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１１年11月 25

イスラームにおける子供の権利

親愛なるムスリの様

崇高なる教えイスラームは、知恵や我欲、財産、そして教えを守ることと並び、次世代をも守ることをも目標としています。それによるなら、子供たちの肉体や精神の健康を保護することは、イスラームが私たちに与えている義務です。子供たちはアッラーによって恵みと目標として私たちに与えられ、生命に意義を加え、平安と喜びの源である恵みです。クルアーンでは子供たちは人生を飾るものであることが述べられています。

将来の若者であり、市民の将来である子供たちにそれにふさわしい価値を与えることはまず両親、教育者、そして全ての社会の義務です。子供たちはアッラーによる私たちの信託です。彼らは清らかな状態で私たちに預けられました。子供たちに真実が教えられ、美徳が教えられている限り、彼らはよい子供たちとなります。子供に与えられる価値は、彼を愛すること、慈悲を与えることから始まります。イスラームにおける子供へのアプローチは慈悲と寛容の見解を基盤とするものです。諸世界への慈悲として遣わされたムハンマドは、「小さいものに慈悲深く振舞わない者、目上の者に敬意を示さない者は私たちの仲間ではない」といわれ、子供たちに愛情を持って振舞うことを原則として私たちに教えられています。ムハンマドは子供たちへの愛情や慈悲が完全に衰えていた時代において子供たちに大きな価値を与えられ、あらゆる機会を捉えて彼らへの慈悲、いたわり、愛情を示されました。ムハンマドは子供たちに挨拶され、彼らに口付けをされ、なでられ、胸に抱かれ、彼らの近況を聞かれ、彼らと遊び、冗談を言われ、さらには孫たちをおぶわれました。こういった振る舞いで子供たちに示されるべき態度について人々への模範となられたのです。

アッラーはクルアーンで「信仰する人々よ。自分たちと家族を燃料が人々と石である炎から守りなさい。」と命じられています。子供にアッラーのご命令を教える際には非常に注意深くあるべきです。両親はよい子供を求めます。そのためには合法な糧で育てること、安らぎに満ちた喧嘩のない家庭環境で育てること、精神世界を美徳で飾ること、責任意識を持たせること、教えの義務をふさわしい時にふさわしい形で説明すること、教えること、彼らを私たちの親友、友達としてあらゆる種類の心からの結びつきを示すことが必要です。教えが何度も指摘している点の一つが、孤児や身寄りの無い子供たちを保護し、世話をし、彼らのニーズに応えることです。ご自身も孤児であられた預言者ムハンマドは身寄りのない子供たちにかかわられ、彼らに悪い態度をとることを禁じられ、次のように言われました。「ムスリムの家庭のうちもっともよいものは孤児の世話がなされている家である。ムスリムの家のうちもっとも悪い家は孤児に対し悪事が働かれている家です」

私たちの未来の保証である子供たちに、それにふさわしい価値を与えなければいけません。次世代が現世と来世での幸福の要因となることを望むのであれば、アッラーが私たちに教えられたとおりに育てなければならないのです。フトバを、クルアーンで述べられているアッラーの純粋なしもべたちのドゥアーで締めくくります。

「主よ。配偶者と子供たちを私たちの目の光としてください。篤信を持つ者たちへの先導者としてください」

。